

辻康介の体感音楽史 中世のソルミゼーションとルネサンス旋律論 Vol.3

2018年5月20日(日)10:30-18:30
@スタジオサンモール 5F 会議室

仙台青葉まつりの日。
中世のソルミゼーションとルネサンス旋律論の第三回目を開催いたしました。



会場のあるサンモール番町商店街には、青葉まつりの山鉾があり、お祭りムード。

毎度おなじみスタジオサンモールは、魅惑の迷宮なので、毎回入口から、ご案内用の掲示を出します。何とか自然の家などでやったレクリエーションを思い出します。



楽しくなって、経路図を記念撮影。



今回はそもそもの会場の場所や建物入口がわからないという新しいタイプの迷子者を出しつつ。

無事、講座がスタートしました。

コマ①：[基礎講座] 六音音階の名称と教会旋法(六音で歌う基礎Ⅰ)(10:30-12:30)

今回は少人数ではあったものの、新しい方々を複数お迎えすることができました。質問もたくさん飛び交う、和やかで濃厚な講座となりました。



中世のドレミの歌や日本古謡のさくらさくらなどを歌いながら、学んでいきます。

六音音階を構成する6つのシラブル(音節)のキャラクターを意識すると、旋律が途端に色彩豊かになるのが驚きでした。

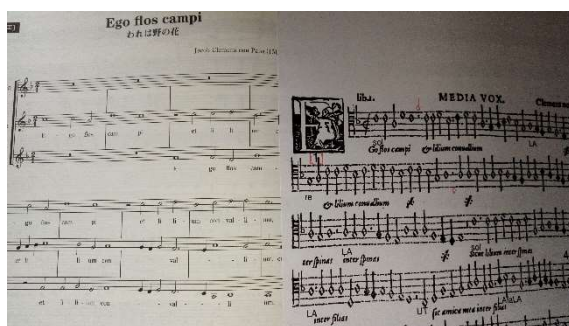


最後は、ソルミゼーションで男女別れて二部合唱に挑戦しました。

それぞれに学んだことを共有しあって、協力しながら歌ってみました。

コマ②：六音で解説！クレムス・ノン・パパとヨスカ・デ・プレの旋律(13:30-15:30)

受講生の人数を鑑み、クレムス・ノン・パパの「Ego flos campi」をじっくりソルミゼーションで解説しました。



今年全日本合唱コンクールの課題曲とのこと。

同じ曲の顔が、譜面次第でこんなに違うんですよ。面白いですね。

ソルミゼーションで解説すると、第一声から旋律の持つ色彩が見えるようです。



辻先生は、合唱連盟の機関紙「ハーモニー」にこの名曲へのアプローチを執筆なさいました。

種々のアプローチが毎回進化していて。同じ理論も、受けるたびに新鮮な気づきがあります。

コマ③：クリーガーのメヌエットを旋法で歌う(16:00-18:00)

今回も、器楽曲を、六音音階を用いて、人の声だけで歌いながらアプローチしていきます。



クリーガーのメヌエットは、小学校の音楽の時間にリコーダーで演奏したことがあります。

今回は、曲の骨格だけを抜き出した楽譜を歌ってから、実際の譜面を読む、というアプローチもありました。



Baroque Dance - Menuet / Il Giardino Armonico

メヌエットですから、踊りのステップも視野に入れつつ。

最後はバロックダンスの動画も鑑賞しました。

ただいま、辻先生はイタリアからの一時帰国中。
ソルミゼーションツアーを敢行されています。

次回の一時帰国は11月頃だそうです。仙台での講座開催は未定です。

本講座に興味をお持ちの方や受講ご希望の方は、やぎミュージックらぼまでご一報いただけますと幸いです。